

『大島アイデンティティーの確立をめざす剣舞の伝承』

柳井市立大島中学校

1 はじめに

大島地区は、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた風光明媚な場所である。平成 17 年 2 月 21 日に柳井市と旧大島町が合併し、柳井市大島となり現在に至っている。大島は古くから周防灘と安芸灘を結ぶ大島瀬戸に面し、海上交通の要所であった。

大島中学校は、瀬戸内海や周防大島橋が見渡せる高台にある全校生徒 23 名の小規模校で、他地区の例に漏れず大島地区も少子高齢化が進み、ここ近年は各学年 10 名前後で推移している。保護者や地域の方は学校に大変協力的で、地域協育ネット「うずしお学園」のもと、大島小・中学校が 9 年間を見通した教育を行っている。

2 研修主題

柳井市大島地区は吉田松陰の盟友である僧月性（大島遠崎の妙円寺住職）の出身地である。吉田松陰は幕末維新の志士を育て上げたことで全国的に有名であるが、吉田松陰に思想的影響を与えたのが僧月性である。僧月性は当時の東アジアの情勢から日本の海防についての危機感をいだき、その危機感から倒幕思想を強くもつことになる。そして、野山獄に囚われの身となっていた吉田松陰と交流し、彼をそれまでの穏健思想から倒幕思想へと一気に変えていくことになる。この歴史的事実はほとんど世の中に知られていないが、ここ大島の人々はそのことを伝え聞いており、明治維新を成し遂げた真の功労者は大島の僧月性であるという自負をもっている。特に、一介の僧であるに過ぎない月性が、日本のために自らの命をかけて奔走したという志に地域の誇りを見出している。そのため、僧月性が学問をするために作った「将東游題壁（まさに東遊せんと壁に題す）」という漢詩に詩吟をつけて舞う剣舞を作り上げ、これを中学生に教え伝えることを長年行ってきた。この漢詩は、別名「立志の誌」とも呼ばれ、志を立てたならば、どんなことがあってもそれをやり遂げるという意味が込められている。つまり、大島中学校生徒が舞う剣舞は、大島地区住民の誇りの表れで

あるとともに、大畠アイデンティティとも言えるものである。

3 活動の概要

(1) 剣舞について

剣舞はすでに小学校の6年生で一度習っている。中学生になる2年生の立志式で披露するために、月性剣舞保存会の方々から本格的に剣舞を習うことになる。剣舞の披露は、運動会（小中合同）と立志式で行う。そのため、夏休みから練習を開始し、9月の運動会で小学校6年生とともに保護者ならびに地域住民に披露する（今年度はコロナ禍のため観覧者は小中の家族のみ）。その後1月に練習を再開し、2月の立志式では志を立てるという姿を剣舞によって示すことになる。立志式では、1・3年生、保護者、地域住民が見守る中、自分の志を述べるとともに、剣舞を舞う。（今年度はコロナ禍のため観覧者は中2の家族のみ）この日までに保存会の方々には、剣さばきだけでなく、指先に至るまでの細やかな動作、鋭い視線の使い方、かけ声の響きまで事細かに指導される。



(2) 立志の集いについて

例年、『立志の集い』では、第1部の『立志式』として、2年生の「立志の誓い」を行い、「こんな人間になりたいという自分の考え」を述べるとともに、家族への感謝の言葉を添える。次に、2年生全員による書道パフォーマンスを行い、大きな紙に力強い書道を披露する。そして最後に、2年生全員が剣舞を舞い、志の高さを示す。立志式における剣舞は、2年生の気持ちが現れたものであり、凛々しさが会場いっぱいに伝わるものとなっている。また、例年「うずしお協育ネット」の全面的なバックアップのもと、第2部として『餅つき及び豚汁の会食とお楽しみ会』が開催され、全校生徒、保護者、地域住民、小学生など多くの人々が集い、2年生の立志をお祝いすることになっている。特に、お楽しみ会では、生徒会が中心

となってアイデアを出し、ビンゴ大会等の交流活動を行い、参加者とのふれあいを図っている。

(3) 今年度の活動について

『立志のつどい』は、今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、第1部の『立志式』のみを行った。『立志式』では、「立志の誓い」を行い、「書道パフォーマンス」と「剣舞」の披露をした。「書道パフォーマンス」では、例年指導を受けている書道の先生から、筆さばきだけでなく、一つひとつの動作や全員での声のそろえ方など、細部まで丁寧な指導を受けた。さらに、全員が心を一つにすることの大切さなど、精神面の指導も受け、熱心に練習する姿が見られた。特に、動きをそろえ、まとまりを見せる練習は繰り返し行っていた。



書道パフォーマンスの様子

また、剣舞は、9月の運動会後、練習を1月から行った。コロナ禍のため、練習時間が限られていたが、動きをさらに良くするために保存会の方々からの熱のこもった指導が続いた。お陰で、9月に比べ、堂々とした姿が見られるようになっていった。



剣舞の様子



書き終えた「書」の前で

4 活動の成果

立志式の観覧者は1・3年生と2年生の家族に限ったが、2年生は参加者の前で、一人ひとり堂々と「立志の誓い」を發表し、見事な「書道パフォーマンス」と「剣舞」を披露した。

特に「剣舞」は、大島中の伝統を引継ぎ、まさに志を感じ取れる見事なものであった。2年生の「剣舞」を見て、3年生は1年前を思い出しながら志を再確認でき、1年生は来年の自分たちの姿を想像しつつ、今できることに一生懸命取り組むことの大切さを感じ取ることができた。大島地区にある僧月性という日本を大きく変えた人材を生み出した町であるという大きな自負心と誇りが込められた「剣舞」を伝承することができ、2年生も達成感を感じることができた。

5 今後の課題

大島地区の少子高齢化は深刻な問題となっている。そのため、未来を担う子どもたちに寄せる地域住民の愛情は、より深さを増しており、子どもの数の減少に危機感を募らせている。この剣舞の伝統の継承を通して、これから先も生徒がふるさと大島を愛し、大島地区に脈々と流れる志の高さをもち続けられるよう、地域ぐるみで子どもを育てることが重要であり、将来、大島を背負う人材となってくれるものと信じている。そのためにも、大島アイデンティティーを肌で感じることでできる剣舞の伝承をしっかりと行っていきたいと考えている。

